

受賞者（大賞・栃木県知事賞）の概要

1 農業経営の部

(1) 審査経過

今年度の農業経営の部には各地から6点の応募があった。受賞された方々は先見性のある経営戦略のもと、生産技術向上や規模拡大、コスト削減等の努力に加え、販売方法等についても様々な創意工夫を重ね安定した高い所得を確保しており、本県の農業振興に大きく貢献し、農業者の模範となる経営が多く見られた。審査は「経営、生産技術、販売」の評価を基本に、地域貢献や環境保全、安全・安心といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 大賞（農林水産大臣賞・栃木県知事賞）

有限会社 エフ・エフ・ヒライデ（宇都宮市）

・経営の特色

消費者、生産者双方の豊かな暮らしへの貢献を目指し、オリエント系を中心に約70品種のユリを生産し周年出荷に取り組んでいる。生産量は年間100万本で、国内ユリ生産量の0.7%を占める。

いち早く環境制御装置等のICT技術を導入した生産性向上を図り、市場や生花店との直接取引やインターネット通販の活用などで販路を開拓してきた。生産履歴データベースを独自開発し、生産状況の把握や販売先への情報提供に役立てており、スケールメリットを活かした取引を行っている。

有機質肥料での土作りや減農薬、薬剤不使用の熱水土壤消毒といった環境負荷低減に取り組み、花き産業総合認証制度環境負荷低減プログラム（MPS-ABC）では最高位を維持している。また、生産状況をSNSで発信することで、家庭内でも安心して飾れるユリ生産をPRしている。

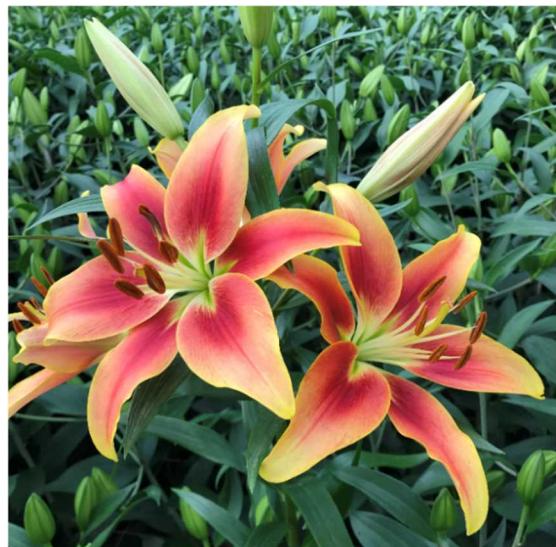
駐日オランダ大使認定の「リリーアンバサダー」としてユリの魅力発信に取り組み、2018年には全国の関係者や消費者を集める大規模イベントを主催した。就農希望者への情報提供を惜しまず、若手育成に貢献している。

・受賞のポイント

スマート農業に積極的に取り組み、更なる生産性向上を目指していることに加え、コロナ禍においても県産花のアレンジキットやユリ定期便といった家庭向け販売を強化する等、販路の維持・拡大に向けた対応をしている点が特に高く評価され、大賞に選出された。



平出賢司代表取締役と美樹夫人



生産・販売されているユリ

● 栃木県知事賞

野口 一樹 氏 (真岡市)

・ 経営の特色

県内トップレベルの規模でいちご生産を行いながら、高い生産技術により県平均を大きく上回る単収を上げている。新品種・新技術を地域に先んじて導入し知見の共有を図るほか、就農希望の研修生の受け入れ等、積極的に地域貢献を行ってきた。また、農福連携にも熱心に取り組んでいる。

・ 受賞のポイント

6次産業化や消費者交流を通じ自家農園のブランド化を目指しながら、いちごによる地域活性化を目指している点が高く評価された。



野口一樹氏



野口いちご園の商品

● 栃木県知事賞

早乙女 善昭 氏・早乙女 典子氏 (栃木市)

・ 経営の特色

I C T機器の導入を図ることで計画的に増頭を実施し、酪農経営を発展させてきた。また、地域農地の受け皿として自給飼料生産を行い、規模拡大に応じた飼料生産基盤を拡充する等、地域への貢献度も高い。

・ 受賞のポイント

高品質な生乳生産を行いつつ、定期的な休暇取得等、従業員も含め働きやすい環境作りに努めている点が高く評価された。



早乙女善昭氏・典子氏



新しい苜蓿の上で休息する乳牛

● 栃木県知事賞

和泉 正行 氏・和泉 華奈 氏 (那須塩原市)

・ 経営の特色

本州を代表する生乳生産地域において、地域農業を次世代に繋ぐべく酪農に取り組んできた。家族・従業員ともに計画的に休暇取得するゆとりある経営を行いながら、独自配合飼料やI C T技術を活用した優れた飼養管理により高品質な生乳生産を行っている。

・ 受賞のポイント

草地管理受託による地域貢献に加え、コントラクター組織設立や法人化を視野に入れた経営など、更なる規模拡大を目指し着実に取り組んでいる点が高く評価された。



和泉正行氏・華奈氏



機械も笑顔で扱います

2 農村活性化の部

(1) 審査経過

今年度の農村活性化の部には各地から9点の応募があった。他の組織と連携し、地域資源や人材を活かした地域活性化に取り組み、地域の魅力発信による交流人口の増大に寄与するなど、本県の農村活性化に大きく貢献し、他地域の模範となる組織・団体が多く見られた。

審査は「地域づくりの担い手の確保、地域農林水産業への寄与、住みよい農村環境の保全・向上」の評価を基本に、地域づくりのための自主的な努力・創意工夫や合意形成・計画性、推進体制の整備・運営といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 大賞（関東農政局長賞・栃木県知事賞）

さかがわ協議会（茂木町）

・活動の特色

農産物直売所、農村レストラン、農産物加工所の複合施設「いい里さかがわ館」を拠点として、地元農産物等を活用した特産品づくりや加工・販売、都市住民との交流を目的とした各種イベントの開催など、所得の向上や就労機会の創出につながる様々な取組を実施している。

地元を盛り上げたいという地元住民の思いを実現するため、2006年に地元住民70名から成る「さかがわ協議会」が設立され、その後、2008年に地域活動拠点となる「いい里さかがわ館」が整備された。現在は世代交代しつつも設立当初と変わらず70名の会員によって協議会を構成し、「いい里さかがわ館」の直売所やそばレストラン、惣菜加工部・アイス部等で活動を展開している。

女性ならではのアイデアを生かした商品開発が盛んで、「さかがわの昼めし」や「そばどろぼう」、「大根のしょう油漬け」など多くの人気商品が誕生している。

また、観光業者等様々な組織と連携し、ミツマタ群生地を活用して新たな交流人口を創出することにより、地域の活性化に貢献している。

・受賞のポイント

地域住民の出資のもとに、合意形成を図りながら、地域が主体になって活動を進めていることや、ミツマタなどの地域資源を活用した努力と創意工夫のある取組内容が特に高く評価された。



さかがわ協議会役員



さかがわの昼めし調理の様子

● 栃木県知事賞

西大芦地区ふるさとづくり協議会（鹿沼市）

・活動の特色

活力ある農山村コミュニティの維持・向上に向け、2018年に閉校した西大芦小学校跡地を地域の交流拠点として利活用し、地域の活性化に向けた取組を行っている。

地域資源を活用したグリーンツーリズム活動や弁当宅配事業、西大芦農産物市の開催等、地域住民をはじめ、地域を訪れる人々が笑顔になる活動に取り組んでいる。

・受賞のポイント

地域が抱える課題の解決に向けて、合意形成を図ることで組織体制を構築し、高齢者への弁当宅配サービスをはじめとした多種多様な活動を展開している点が高く評価された。



廃校を利用した地元産農産物の販売



地域高齢者向け宅食の出発式

● 栃木県知事賞

社会福祉法人 パステル（小山市）

・活動の特色

施設を利用する障害者、地域住民、学校関係者、農業関係者、経済関係者等と共に桑産業の再興に向けた様々な活動を展開している。

・受賞のポイント

桑の栽培をはじめ、桑の葉や実を原料とした加工品の製造・販売、また関東で初となる農福連携によるノウフク JAS の認証取得など多彩な取組を行っている点が高く評価された。



社会福祉法人パステルのメンバー



桑の収穫作業

● 栃木県知事賞

しおやグリーンツーリズム推進協議会（塩谷町）

・活動の特色

廃校となった小学校を改修した宿泊体験交流施設を拠点として、農山村の暮らしの魅力を活用したグリーンツーリズムの実践に取り組んでいる。

・受賞のポイント

子ども農村体験やツアーガイドを通して、多くの都市住民を呼び込み、地域の活性化に寄与している点が高く評価された。



協議会の構成員



子ども農村体験

3 芽吹き力賞

(1) 審査経過

今年度の芽吹き力賞には各地から6点の応募があり、自身の経験に基づく独自性の高い農業に取り組む若手農業者が多く見られた。それぞれが理想とする農業の実現を目指し、着実な規模拡大を図るだけでなく、雇用創出や食育活動で農業による地域貢献を行うなど、今後の発展が期待される。

審査は「活動の動機と着想、課題解決に向けた創意工夫」の評価を基本に、推進体制や活動の成果、今後の発展性といった観点を加えて行い、書類審査及び現地審査を経て、各賞を選出した。

(2) 受賞者の概要

● 栃木県知事賞

株式会社 m f (壬生町)

・取組の特色

栃木県を代表する農産加工品であるかんぴょうを後世に繋ぐため卸業者2社が協力し立ち上げた法人で、生産工程の分業化やワークシェアリングにより、重労働であるかんぴょう生産の負担を軽減しながら計画的な規模拡大を進めている。

・受賞のポイント

6次化商品開発等によるかんぴょうのPRを行うほか、従業員の独立就農を後押しするなど、業界全体での成長を目指している点が高く評価された。



毛塚副社長(左)と赤羽根社長(右)



かんぴょう干しの様子

● 栃木県知事賞

福田 正英 氏・福田 美幸 氏（高根沢町）

・取組の特色

水田を活用し、これまで本県になかった機械化一貫体系によるたまねぎの大規模生産を行うとともに、需要に対応すべく自ら販路を開拓している。将来的に地域農業の担い手となることを見据え、需要拡大が見込まれる加工用たまねぎに着目し、着実な経営発展を遂げてきた。

・受賞のポイント

熱心な農福連携の取組や機能性たまねぎを活用した加工品開発などを行いながら、更なる規模拡大を目指し、地域のみならず県内の土地利用型園芸の牽引役となっている点が高く評価された。



福田正英氏・美幸氏



ハーベスタでの収穫風景

● 栃木県知事賞

相場 博之 氏・相場 祥子 氏（那須町）

・取組の特色

県内で18年振りとなる酪農の新規参入を果たし、生乳生産量で好成績を収めるなど実績を上げてきた。牛のストレス軽減を重視しアニマルウェルフェアに配慮した経営を行いながら、地域の和牛繁殖農家と連携した預託システムを構築するなど独自の取組を行っている。

・受賞のポイント

多額の初期投資を要するため困難とされる酪農新規参入のモデルケースとなっているだけでなく、地域農家や酪農協等と連携し、後続の新規参入者を支援している点が高く評価された。



相場博之氏・祥子氏



夫婦仲良く給餌作業